

三田4・5丁目・高輪
白金・白金台

発行:高輪地区総合支所
協働推進課



みなとぶ

Takanawa
Community News Magazine

CONTENTS.....

② 活かそう、地域の商店街!
高輪コミュニティ広場
わたしだって地域の一員!

③ この街にこの人あり

日本赤十字社社長、
国際赤十字・赤新月社連盟会長
近衛 忠輝さん



④⑤ 地域のあしあと
大名の菩提寺をたずねて

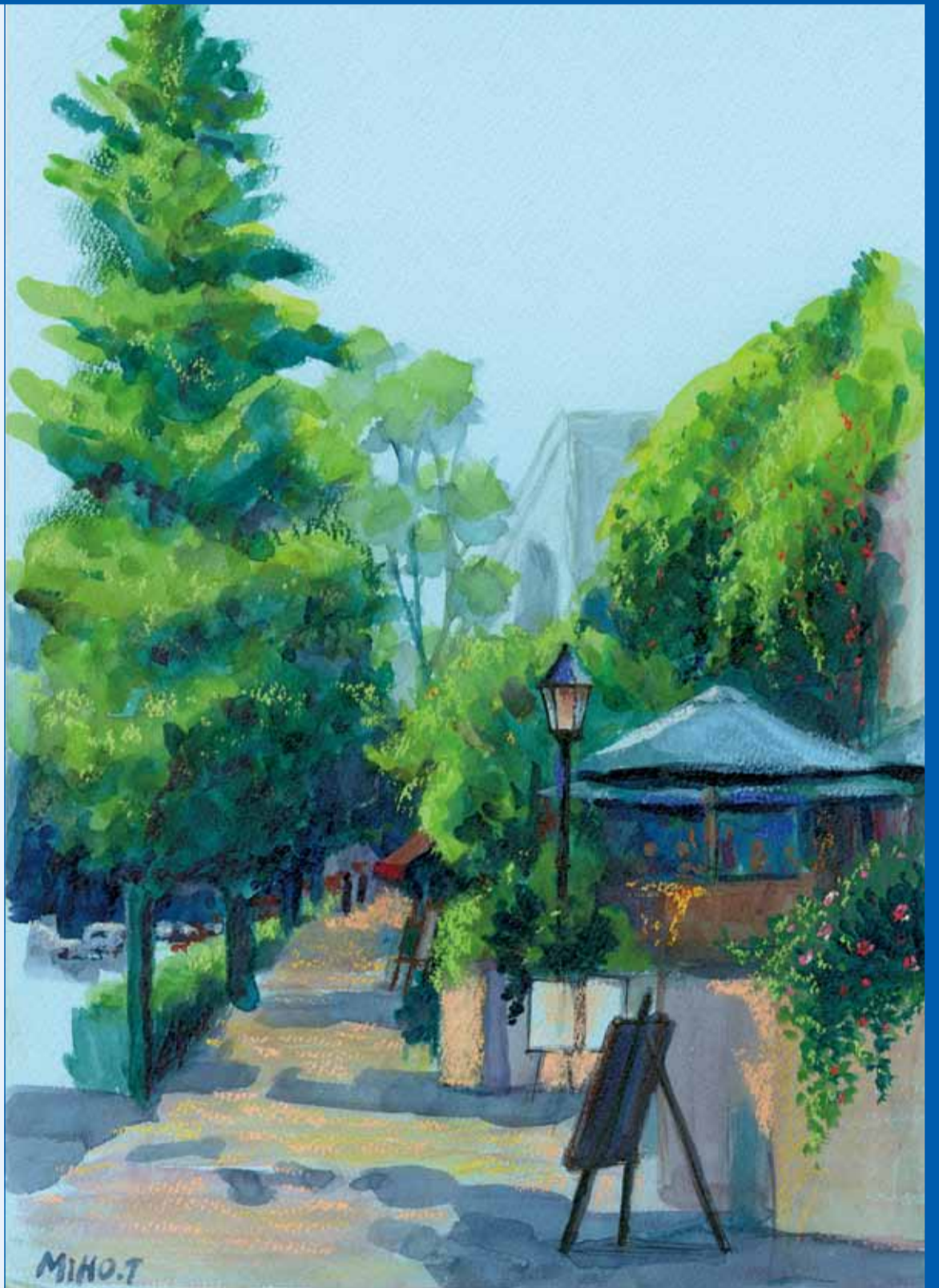
⑥ 暮らしプレイバック

⑦ 私の自慢・地域の自慢

⑧ 区からのおしらせ

「プラチナ通り」

表紙絵作者 高橋 美穂 さん(三田4丁目在住)



共に支え合い暮らせる 「共生のまち」

戦後間もないころ、焼けあとが残る原っぱで、私たち小さな子どもたちが集まるといつも缶けりをして遊んだことを思い出します。日が暮れるまで夢中になって遊んだ光景の中にいつも思い浮かぶのはM子さんのことです。M子さんは18歳ぐらいの年で知的障害をもっていました。毎日、日課のように子どもたちの遊びの輪に加わり、ふっくらとした大柄な体を敏捷に動かし上手に缶を蹴っていた姿、転んで泣く子を抱き起こし膝の泥を払っている姿などおぼろげに記憶の中に残っています。M子さんの家は原っぱから見える場所であり、夕方になるとお母さんが迎えにきてM子さんの手を引いて帰って行きました。そんなM子さんがある日を境にふっと姿を見せなくなりました。お母さんの突然の入院で、面倒を見てくれる人がいないというところで親戚の家に預けられたと聞いたのはずっと後になってからでした。

当時はまだ、障害者を支援する制度的なものも整っていない、障害者自身が日常のなかで必然的に社会に参加する状況があったように思います。そして本人の家族を中心とした地域社会がみんな障害者を支えていたようにも思います。

めくるめく時代が変わり、焼け野原だった空地には高層マンションが林立する現在、核家族化等に伴い家族のあり方が変わりました。社会的には少子高齢化が進み、子どもたちの遊ぶ姿もあまり見受けられなくなりました。地域においても住民同士の交流が少なくなつたと感じています。

ますます高齢化は進み、ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者夫婦のみ世帯が地域で孤立しやすいう状況が増えてくるのが考えられます。

このように変化していく社会のなかで、障害者や高齢者が自分らしく安心して暮らし続けられるよう心温かなまちづくりを支援していくための制度のさらなる推進、地域コミュニティの再生などが求められています。

そして、人と人が互いに支え合い、障害を持つ人にも持たない人も老若男女を問わず地域で共に暮らしていける「共生のまち」であり続けたいものです。



白金商店会のにぎやかな夏祭り



高輪地区には、現在8つの商店街があり、それぞれユニークな活動を展開しています。商店街は、いわば地域の顔。商店街に活気があふれていると、住んでいる人の生活も豊かに、そして楽しくなります。「地域の商店街がいつまでも発展し続けるように」との願いをこめて、今号から順次、地域の商店街をご紹介します。



すべてLED照明で、イメージ一新

白金商店会会長の小林靖彦さんにお話を伺いました。小林さんはこの商店街で約60年洋品店を経営。商店街会長も20年以上勤めておられます。



白金商店会会長小林さん

白金商店会は、100年以上続いている歴史のある商店街です。かつては町工場が多くあり、工場の家族の方や住みこみで働く工員さんたちの買物でとても賑わっていました。以前は「四の橋商店街」という名前で親しまれていましたが、その後、「四の橋・白金商店街」という名前になり、7年前に現在の「白金商店会」という名前になりました。現在の白金商店会の会員数は63店舗で、商店街のほとんどの店が会員となっています。特に婦人部の会員の活躍が白金商店会の活動を支えています。

白金商店会の特長としては、生鮮3品（肉、野菜、魚）のお店が揃っており、東京一と自慢できる魚屋さんもある、知名度の高いレストランもあります。また、スマイル商品券（港区内共通商品券）が毎年発行されますが、白金商店会の販売額は港区全体の発行額の約1割を占めており、港区の商店街では一番です。

全国の商店街で空き店舗の増加が問題となっていますが、白金商店会は空き店舗はほとんどありません。空き店舗ができてすぐ次の店が入ってくるということです。ただ、後継者のいない店舗も数多くあることから、将来的には、今の店舗のオーナーが貸店舗を営み、別の方が商売をすることが多くなると予想されます。

毎年、8月には夏祭りが催され屋台が多く出店し、盆踊り大会も開かれ、大勢の人で賑わいます。雪村いずみなど芸能人が出演したこともあります。今年は、27回目に当たり、被災地支援として福島、群馬、茨城、千葉の物産店も誘致しました。

また、今夏には、助成を受け商店街灯を一新し、港区で初めてすべてLED照明にすることにしました。デザインもおしゃれになり電気の使用量も五分之一になります。もちろんCO₂の削減にも効果があります。また、合わせてスピーカーも設置され災害時などにも活用されます。ぜひおいでください。

今後の商店街の活性化対策としては、白金商店会の各店舗の閉店時間を遅らせ、夜遅くまでにぎわう商店街にしていきたいと思っています。

(担当 / 菅野・安藤・立原)

わたしだって地域の一員!

“高輪地区はペットと仲良く暮らす街”—ペットは、大切な家族の一員であり、地域の住民です。そこで、今回から始まる新しいコラム「わたしだって地域の一員!」。あなたの自慢のペットをご紹介します。イヌ・ネコはもちろんペットの種類は問いません。ご自分のペットをぜひ登場させたい、と思われる方、写真と簡単な記事を添えて応募方法にしたがってお送りください。お待ちしております!

■ シナモンちゃん (トイ・プードル/メス/6歳/高輪在住)

家族全員がアレルギー体質なので、抜け毛の少ないトイ・プードルの私が選ばれ、新しく家族に加わりました。抱っこをたくさんしてもらってハッピーです。

好きな食べ物は、ドッグフードの他に夏はサラダ。うす〜く切ったきゅうりやトマト、茹でたブロッコリー等、緑の野菜を食事の支度をしているお母さんからもらいます。冬は「お鍋」。お豆腐、白身のお魚、鶏肉、白菜のくたっと煮えたのなんか美味しいですね。お父さんの側に座っていると、タレをつける前のをもらえるので、お利口にしていないといけません。

お散歩も、大好き。お天気がいい時は、1時間ぐらい歩きます。ちょっと怖がりだけど社交的なので、お散歩で出会ったワンちゃんにご挨拶したいと思っています。見かけたらよろしくお願ひしますね。



(担当 / 森・谷知)

<応募方法>

ペット紹介のほか、おすすめ料理 (6ページ掲載) も募集しています。

あなたの自慢のペット、自慢の料理を紹介してみませんか?

- ①記事、②写真 (プリントL判またはCD-R)、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥FAX番号、⑦メールアドレスを書いて下記あて先に送付してください。

※掲載をお約束するものではありません。

※応募書類は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

【あて先/問い合わせ先】

高輪地区総合支所協働推進課「地域情報紙 募集担当」
〒108-8581 港区高輪1-16-25 ☎03-5421-7123



高輪コミュニティ広場 「コミュニティ・サロン&自然体験教室」 自然からの贈り物いっぱい!

日差しがまぶしい6月2日、白金台の自然教育園で子どもと保護者が一緒に楽しむ「コミュニティ・サロン&自然体験教室」が開かれました。昨年開催した第1回が好評だったため今年も引き続きの開催となったもので、定員40人のところなんと60人以上が応募。抽選で45人の方が参加しました。

高輪地区では、地域コミュニティの拠点として公園・児童遊園や大学などを活用し、誰もが気軽に訪れ交流をはかれるコミュニティ・サロンづくりを目指しています。その一環として今回の自然体験教室が開催され、小学生以下の子どもたちが保護者同伴で自然とのふれあいを満喫しました。

ほら、「赤ちゃん葉っぱのしおり」 ができた!



今回の教室の目玉は、室内で作業する「赤ちゃん葉っぱのしおりづくり」。園内の膨大な樹木の若芽を集めてつくるしおりの制作です。自然教育園の職員があらかじめ集めておいたいろいろな種類の若芽を組み合わせ、しおりの台紙に張り付け、ラミネート加工してリボンをつければ出来上がり。保護者とあれこれ相談しながら完成させ、仕上がった作品を手にした子どもたちは大満足の様子でした。教室の最後に、自然教育園の矢野先生から「赤ちゃん葉っぱと大人の葉っぱではとても違うものがある」など植物の特性についてのお話があり、体験教室は無事終了しました。

そのあとはいよいよ待望のお弁当タイム。園内の広場に移動し、あふれる緑に包まれながら、子どもも保護者も一体となってにぎやかに食事を楽しみました。

食事の後、緑いっぱいの園内を元気な子どもたちと保護者で、自然を観察しながら散策しました。小さい子どもたちにとって、素晴らしい自然からの贈り物を得た一日だったことでしょう。



「赤ちゃん葉っぱのしおりづくり」に熱心に取り組んでいます



わーい、緑あふれる園内での食事です

(担当 / 谷知・安藤・立原)

この街にこの人あり

日本赤十字社社長、国際赤十字・赤新月社連盟会長

近衛 忠輝ただてるさん

日本赤十字社が世界で初めて災害救護を行いました

この地域に何年位お住まいですか

白金台には3年ほどですが、その前は六本木に長く住んでいました。この地域では庭園美術館や自然教育園にはよく行きます。車で芝浦などの海岸を見に行くこともあります。

私の出身は熊本の細川家ですが、江戸時代細川家の中屋敷だった場所が高輪にあります。討ち入りの後、細川家には大石内蔵助以下赤穂義士17人が預けられました。細川家は特に義士を手厚く歓待したようで、大石内蔵助の感謝状が細川家に残っています。

日本赤十字社に入られたきっかけは

私の誕生日（5月8日）がちょうど国際赤十字・赤新月デーにあたるので小さいころから関心がありました。ロンドン留学時代、ジュネーブに遊びに行った時、国際赤十字・赤新月社連盟のパレードに羽織袴で参加したこともありました。国際的な仕事をしたかったので、25歳頃、当時の日本赤十字社の社長だった島津さんからお誘いを受けて決心しました。

日本赤十字社に入られて国際的な仕事につかれたのですか

当時日本赤十字社は海外支援の予算は600万円しかなく、入ったばかりの社員は到底海外出張はできず、しばらくは日本にいました。そのうち、スポンサーを見つけて海外に行くようになりまし。日本では使われなくなった足踏みミシンを発展途上国に送る支援活動をしたり、日本の車の宣伝も兼ねてアフガニスタン、ネパールまで運転して走りました。国際赤十字・赤新月社連盟のあるスイスのジュネーブには7、8年滞在したこともありました。

最初に支援活動に参加したのは、独立する前後の洪水の被害にあったバングラデシュです。川をボートで移動していたのですが、ボートが泥の浅瀬に突っ込ん

でしまい、海の干潮時にあたりそのまま移動できなくなり、夜ずっとそこで過ごすことになってしまったこともありました。メキシコの地震の被災地に行った時は、三日三晩何も食べることができずにカロリーメイトだけで活動をしていました。インド地震の支援に行った時は、泊る場所がなくテントで過ごしたのですが、トイレがなく外で用を足していると野生の豚に尻をなめられ



ることもありましたが（笑）。幸い私は病気になったことはありませんでしたが、腹が弱い人と潔癖性の人は国際的な支援活動は厳しいかもしれませんね。

東日本大震災の時は、日本赤十字社はどのような活動をされましたか

今度の災害はコミュニケーションの不足と交通の断絶が大きな問題でした。そのため、現地に行くことを最優先し、災害発生直後、全国にある92赤十字病院のうち、ほとんどの病院から救護班が東北に向かいました。また、石巻市の赤十字病院は高台にあ

り免震構造であったため被害は免れました。そこを拠点に医療・救護だけではなく、避難所の物資の配給、孤立した方々の連絡など様々な支援活動を行いました。

現在まで日本赤十字社で救護活動を行ったのは896救護班です。延べ87500人以上の患者を診察しました。原発事故で警戒区域から避難された方々が一時帰宅した後、健康チェックなどの診察も行いました。また、被災者の精神的ストレスを緩和するため、こころのケア活動も行い、14000人以上の方々が、直接ケアを受けられました。

もう一つは義援金活動です。国内の義援金の総額は共同募金も含め、2012（平成24）年6月7日現在、約3567億円にもなっています。また世界の90カ国以上の赤十字社を通じて、約580億円の赤十字活動救護金が集まりました。こちらが支援しなればならない小さな国々からの救護金もあり、頭が下がる思いでした。それ以外に、クウェートから、500万バレル（約440億円相当）の原油が寄贈されました。

義援金の配分には、時間がかかりお叱りをうけたこともありましたが、15都道府県の被災された方々に、合理性と公平性を十分に考慮して配分できたと思います。今回、被災地の範囲が広がったこと、想定を超えた震災のため行政が十分機能できなかったこと、住民票がなくなった地域もあったこと、行方不明者が多かったことなどで配分には随分困難がありました。全国の日本赤十字社職員は、被災者の皆さんに思いを馳せつつ、毎日必死な思いで作業をしました。義援金は一切手数料を取らず、集まった金額を被災者の銀行等口座に直接振り込む形で配分されました。一方、海外の姉妹赤十字社からの救護金については、日本赤十字社が

仮設住宅に家電製品を設置し、病院の再建、福祉、教育など、復興活動に活用させていただいております。

アジア人で初めて国際赤十字・赤新月社連盟の会長に選ばれましたね

国際赤十字・赤新月社連盟の加入国は全部で187カ国あります。アジア地域は（中近東なども含む）51カ国です。今まではヨーロッパやアメリカ、南アメリカの国の方が会長でした。先進国と発展途上国の利害が対立し、難しい選挙でしたが、このたびアジア人で初めて会長に選ばれました。

私が選ばれた一つの理由は、国際赤十字・赤新月社連盟にある「昭憲皇太后基金」の存在です。「昭憲皇太后基金」は国際赤十字・赤新月社連盟では知らない人がいない位有名です。

「昭憲皇太后基金」とはどんな基金ですか

昭憲皇太后（明治天皇の皇后）は磐梯山が噴火した時、被災者に心を痛められ、日本赤十字社から医師を派遣するよう命じられました。国際赤十字・赤新月社連盟は戦争で被害を受けた方々を救済することが目的でしたが、この時初めて災害救護を行いました。

1912年、昭憲皇太后は平時の救護活動を行うために日本赤十字社を通じて10万円（現在の約3億5千万円相当）を寄付されました。これまで、この基金で157の国と地域の開発援助を行うことができました。「昭憲皇太后基金」は2012（平成24）年に創設100周年を迎えます。日本ではこの基金のことはあまり知られていないので、これを機会に大いにPRしたいと思っています。

最後に趣味はどんなことですか

音楽が好きです。六本木男声合唱団倶楽部に所属しています。第九の合唱にも何度か参加しています。

◆インタビューを終えて

近衛さんのお話をお聞きして、改めて私たちは日本赤十字社の仕事の大変さを理解できました。皆さんの寄付する気持ちを大切に、被災者にとのようにならねばならないのか、日本赤十字社の方々はものすごく努力されていることを感じました。その長である近衛さんは一番大変だと思っています。自ら被災地の現場に何度も行って指示するとともに、年の4分の1を海外で過ごされるといふエネルギーでバイタリティーにあふれる方なのに驚きました。ダンディで、まさに日本の紳士のお手本のような方でした。

（担当/安藤・三村・明石・河村）



被災地の現場で指示される近衛さん

近衛 忠輝（このえただてる）

1939年5月8日、東京生まれ。学習院大学卒業後、ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに2年間留学。その留学先からの帰国途中に中東、アジアの紛争地を巡り、帰国後日本赤十字社に入社。以来40年以上にわたり赤十字一筋で活躍。日本赤十字社の幅広い国内事業に従事。その内容は災害救護活動、医療事業、血液事業、社会福祉事業、救急法等講習普及事業、青少年赤十字、国際救護活動などに及ぶ。

1991年～2005年には、日本赤十字学園の理事長を務めた。2005年、日本赤十字社社長に就任。同年11月、国際赤十字・赤新月社連盟（現在、187カ国加盟）副会長に就任後、2009年11月、国際赤十字・赤新月社連盟の会長に就任し、現在に至る。夫人は三笠宮家のご長女、甯子様

地域のあしあと

大名の菩提寺をたずねて

■菩提寺

葬式をおこなう寺院のこと。ここでは、墓所を営む寺院や追善法要をおこなう寺院も含んで、広く菩提(死後の冥福)を弔う寺院とする。

■山号

寺院の名の前に付す称号。日本では鎌倉時代に禅宗が伝えられ、中国の五山を模して山号をつけたことから広まって、後に所在が山中でなくても山号を付すようになった。寺の正面の門のことを、「山門」というのもここからきている。

■院号

本来、院とは垣を巡らせた建物のこと。中国・日本では、仏教関係の施設を院と称した。一寺で院号を称するものもあるが、多くは寺院内の子院や塔頭の称号に用いられた。また、生前に建立した寺院の院号が、その人の戒名に用いられるようになった。

■開山

寺院を創始すること。当初寺院の多くは、山を開いて建立したことからくる。そのため、寺院を開創した僧侶、特に初代住職を指すようになる。

■開基

寺院の創始にあたって、特に必要な経済的支持を与えた者で、世俗在家を指す。

今号では、高輪地区の大名の菩提寺をとりあげました。参勤交代により、江戸と国許を往復していた大名たちの多くは、その両方に菩提寺を持っていました。正室と子女たちは、原則江戸での生活を義務付けられており、一度も国許へ入ることがなかった人も多くいました。江戸在府中に亡くなる大名がいたこともあり、江戸にも菩提寺が必要でした。取材のため、たくさんの菩提寺をめぐるりましたが、地区内に残る大名墓の立派な墓石に、歴史の重みを感じさせられました。

参考文献：港区立港郷土資料館発行「増補港区近代沿革図集」所収の『御府内場末往還其外沿革図書』（弘化3年）



大名の菩提寺

※基本的に墓地への立ち入りは許可されていません。また、ほとんどのお寺が、訪問やお問合せには対応しておりませんのでご了承ください。
※本特集には、すべての菩提寺、大名等が掲載されているわけではありません。

1 郭然山寿松院 林泉寺 三田4-3

寛永12年(1635年)当地へ
開基は杉原伯耆守長房。杉原家は徳川家臣であり、家康に従い、江戸に下向。『御府内寺社備考』などによると、当初は「悟真山常照院林泉寺」と称していた。杉原家が絶えた後、当寺も衰退したが、後に越後長岡藩牧野忠成の内室が葬送されたため、牧野家を中興開基とし、その室の法名「寿松院殿然蒼巖郭清順大姉」から山号と院号を改めたとの記載がある。
・但馬豊岡藩(兵庫県)杉原家



1

2 虎嶽山常林寺 三田4-5

寛永12年(1635年)当地へ
・下総結城藩(茨城県)水野家
・出羽新庄藩(山形県)戸澤家



2

3 平等山正覚院 三田4-11

慶安元年(1648年)当地へ
父・福島正則供養のため、次男正利が開創
福島正則は賤ヶ岳七本槍の筆頭で、安芸広島藩の藩主。正利(正覚院殿)は旗本(寄合)。
・福島正則供養塔・正利墓



3

4 寂照山晚鏡院 実相寺 三田4-12

寛永12年(1635年)当地へ
会津藩祖保科正之(徳川秀忠子)によって江戸における保科家(のち松平家)の位牌所(菩提寺)と定められ、第2代藩主正経の生母である聖光院(おまんの方)をはじめとした会津藩主の側室・子女の菩提所であり、墓が十数基ある。
・陸奥会津藩(福島県)松平家



4

5 周光山長寿院 濟海寺 三田4-16

元和7年(1621年)創建
昭和57年牧野家の墓所改葬に伴い、発掘調査が行われた。多くは埋葬当時のまま残されていて、副葬品は印籠・硯・矢立といった文化人的色彩の強いもので占められており、平和な時代の大名の暮らしをうかがわせるものとなっていた。
・越後長岡藩(新潟県)牧野家
・伊予松山藩(愛媛県)久松松平家



5

6 大光山重秀寺 白金2-1

元禄7年(1694年)当地へ
・越後糸魚川藩(新潟県)松平家
・大和芝村藩(奈良県)織田家



6

7 智光山立行寺 白金2-2

寛文8年(1668年)当地へ
・旗本 大久保彦左衛門忠教の墓
・相模小田原藩(神奈川県)大久保家
・大河内家(旗本)



7

8 大雄山興禅寺 白金6-14

『寛政重修諸家譜』によると、興禅寺は上杉定勝女が前田利治の室(松嶺)となるも、利治死去後実家に戻り尼となり(隠之と称す)、興禅寺を起すことある。
・出羽米沢藩(山形県)上杉家



8

9 月秀山栄松寺 光臺院 高輪1-23

明暦4年(1658年)当地へ
開基は内藤兵部少輔政晴で、母の菩提を弔うために建立した寺院である。
・三河孝母藩(愛知県)内藤家



9

10 醫王山廣岳院 高輪1-24

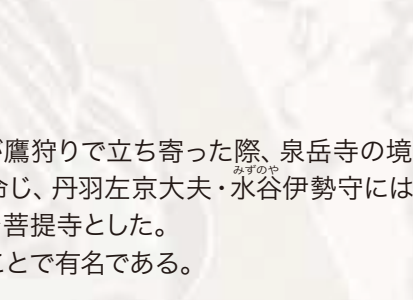
承応2年(1653年)当地へ
寺号は信濃飯山藩(長野県)初代藩主佐久間安政嫡男勝宗の法名・廣岳院殿より名づけられた。
・肥前鹿島藩(佐賀県)鍋島家
・交代寄合B 鍋島家



10

11 清涼山松光寺 高輪1-27

明暦2年(1656年)当地へ
寛文2年(1662年)に播州明石城主であった松平日向守信之が、一字を建立し菩提寺と定めた。その際、母の法号である「松光院殿」を寺号とし、松光寺と改称した。
・出羽上山藩(山形県)松平家
・肥後熊本藩(熊本県)細川家



11

12 萬松山泉岳寺 高輪2-11

寛永18年(1641年)当地へ
多くの大名の菩提寺となっている。
『御府内寺社備考』によると、寛永19年、家光が鷹狩りで立ち寄りた際、泉岳寺の境内の山を切開き大門を作るように朽木民部少輔に命じ、丹羽左京大夫・水谷伊勢守にはその手伝いを命じた。それより、この三家は泉岳寺を菩提寺とした。元禄赤穂事件の浅野内匠頭・赤穂義士の墓があることで有名である。

13 佛日山東禅寺 高輪3-16

寛永13年(1636年)当地へ
当寺は日向飫肥藩(宮崎県)を始めとして、多くの外様大名の菩提寺となっていた。開山の嶺南崇六は日向飫肥の出身で、家康・秀忠の軍学師範として、関ヶ原の戦いにも従軍している。

A 「旗本」(寄合)

江戸時代、将軍の直属家臣団のうち、石高が1万石未満で、お目見え(将軍に直接拝謁できる)以上のもの。因みに1万石以上が大名。このうち三千石以上の無役の旗本は、寄合とよばれた。

B 「交代寄合」

江戸定府が原則の旗本の中で、参勤交代することを許された家。34家あった。

C 「御府内寺社備考」

正式名は「御府内備考 続編」といい、文政12年(1829年)に成立した、江戸の社寺に関する地誌資料集。

D 「寛政重修諸家譜」

寛政年間(1789年~1801年)に江戸幕府が編集した江戸時代最大の系譜で、大名と幕臣の経歴を詳細に記す。

暮らし フレイバック

.....
お話を伺った人
なかに
中谷 滋さんご夫妻
(白金台在住)

半世紀以上前の高輪地区は、一体どんなまちだったのでしょうか？
どんな光景と暮らしがひろがっていたのか。高輪地区に長くお住まいの方々にお話を伺い、昔を訪ねていくページです。

第1回は、白金台にお住まいの中谷滋さんご夫妻。滋さん(85才)は、音楽家細野晴臣さんの伯父さまで、生まれてからずっと白金台にお住まいです。夫人の国子さんもご結婚以来、長く白金台でピアノの先生としてご活躍です。

滋さんは大学卒業後、当時の労働省やILO(国際労働機関)に勤務、幾度かの海外勤務を除き、戦前戦後の白金台の変貌を目のあたりに見てこられました。



目黒通り(1967年頃) 写真提供:金子芳夫さん

あのプラチナ通りが、昔はなんと畑だった!

生まれたのは白金台の利庵(蕎麦屋さん)のすぐそばで、小さい頃に、利庵の斜め前で現在の外苑西通り(通称、プラチナ通り)のど真ん中に引っ越しました。昔はあのあたりは、路地と家があるだけでした。

親戚のほとんどが近くに住んでいました。父親は、音大の先生で、当時ピアノの調律の第一人者でした。叔母がお産婆さんをしていて(利庵の隣に住んでいた)、地域の方々からとても頼りにされていました。もう1人の叔母は戦前からアメリカの映画会社に勤めていて、うちにはピアノの他、叔母がくれた欧米のジャズやポップスのSPLレコードがいっぱいありました。甥の晴臣も隣に住んでいてよくうちに遊びにきました。おしめをあててちゃぶ台に手をつきながら、そのSPLレコードを夢中で聴いていたのをおぼえています。

当時、自然教育園は白金御料地(元宮内省)で中には入れなかったのですが、塀の壊れたところから時々入り込んで、陽だまりで本を読んだりしました。目黒通りにはさまざまなお店がありましたよ。本屋、魚屋、駄菓子屋、米屋、果物屋など。都電が走っていて、よく音が聞こえました。遠くへ行く時は便利でした。

戦争中、帝国大学の学生となり昭和20年5月から勤労奉仕で、千葉の山の中で畑を開墾し、さつまいもを植えたりしました。終戦もそこで迎えました。自分より1年上の学生たちは学徒動員で徴兵された人も大勢いました。戦争が終わり家に戻ったら、自分の家は強制疎開でとり壊され道路になっていました。もともと道路計画があったことと、近くに焼夷弾が落ちたので延焼を防ぐねらいで、そのあたりの家が意図的に壊されたのです。戦後4~5年は、皆さんあの通りを畑として使い野菜を育てたりしたのですよ。父親がその通りのそばに家を買ひ、以来ずっと住んでいます。当時の同級生で今もここに住んでいるのは、私を入れて2~3人だけです。

今の白金台はおしゃれな店が建ち並び、その変貌ぶりに驚いています。



あのプラチナ通りが畑だったなんて!ビックリするようなお話でした。小さい頃の思い出、目黒通りの商店街の賑わい、戦時中の体験談など貴重なお話を聞くことができました。甥の晴臣さんが音楽の道に進まれたのも、お祖父さまの素晴らしい音感や中谷家にあった欧米のレコードの影響かもしれませんね。

(担当 / 滝川・吉田)



読者 H.Mさん(高輪在住)のおすすめ料理

ソーセージとキャベツの煮込み アルザス風

おすすめ料理
募集中!

※応募方法は2ページ参照



フランス・アルザス地方の伝統的な器

●材料(4人分)●

・キャベツ	1/2個	粗く千切りにし、軽く塩をふり、水気が出てきたら水分をきる
・フランクフルトソーセージ	4本	2つに切る
・ハム(塊)	200g	4枚に切り、それを2つに切る
・ベーコン(塊)	200g	50gはみじん切りにし、あとを四つに切る
・玉ネギ	1/2個	みじん切り
・ジャガイモ(中)	4個	皮をむき、2つに切る
・白ワイン(辛口)	300cc	
・香辛料 胡椒	少々	
	ジュニパーベリー(ねずの実)	4~5粒
	クローブ	4~5粒
・ビネガー	大さじ2	

●作り方●

1. みじん切りのベーコン、玉ネギを一緒に透明になるまで弱火でゆっくり炒める。
2. 1の鍋にキャベツを入れ、その上にソーセージ、4つに切ったベーコン、ハムをのせ、白ワイン、ビネガーをかける。水1/2カップを加える。
3. 香辛料を散らし、ふたをして弱火で30分程ゆっくり煮る。途中焦げないように気をつける。足りない時は水を少しさす。
4. ジャガイモを上に入れ、柔らかくなるまで(15分位) 続けて煮る。

ワンポイント・アドバイス

キャベツのかわりにザワークラウト(約500g)があると、より簡単にできます。その場合はビネガーは不要です。香辛料で手に入らないものは、ぬかしてもかまいません。クローブは、調理後に取り除きましょう。

(担当 / 三村・滝川)



さまざまな仕事や活動を通じて、周囲を明るく元気づけてくれる…
 そういふ方々をご紹介します。ページです。
 高輪地区にはまだまだオタカラが眠っているはず。
 こんな方の活躍をぜひ載せて、という情報をお持ちの方は、ぜひご一報ください!

病院で役立つキワニスドールづくりに励む

山根 幸子さん (高輪在住)

キワニスドールをご存じですか? キワニスドールとは、木綿生地にポリエステル綿をつめた真っ白いのっぺらぼうの体をした人形で、幼い患者の手術や治療の際、医者・看護師がこの人形を使って病気や手術をする箇所をしるして説明します。これで幼い患者の理解が早まり、不安、緊張、恐怖感を軽くする効果があります。ドールは小さい子どもたちの身体のサイズに合わせ、抱きかかえやすいように工夫、考案されたそうです。

子どもが自由に顔を描いたり、色を塗ったりして人形に愛着を持たせることができます。自分の分身のように思い、退院してからもずっと持っている子どももいます。

そもそもキワニスドールは、アメリカのデトロイトで奉仕活動をしていたキワニスクラブが、50年ほど前からつくりはじめたものです。現在、キワニスクラブは96カ国、8,000クラブ、26万人の会員がいます。

山根さんたちは港区チャレンジコミュニティ大学で仲間ができたのをきっかけに、2年前にキワニスドールを製作するグループ「エンゼルの会」を立ち上げました。グループは「キワニスクラブ」の会員ではなく一般ボランティアです。賛同者は16人で毎回10人ほどですが、すでに17回も集まり200体のキワニスドールを製作し、クラブに送りました。時には明治学院大学の学生たちも参加して、一緒にドールを作った後に東日本大震災での現地ボランティアの経験談などを聞いたりしています。

キワニスドールの材料はキワニスクラブから送られてきます。作り方の指示書にしたがって綿つめとミシンがけをするのが主な作業です。「ミシン掛けは私に任せて」と言って下さる方、作業する場所を提供して下さい下さった方、ご一緒に綿詰めをして下さる方々、皆さんのお陰でこの「エンゼルの会」は続いています。仲間の皆さんに感謝しております。



山根幸子さんとキワニスドール



ドールに書き込みをする子どもたち



「第1回エンゼルの会」キワニスクラブをお招きしてドール製作説明会実施

素敵な布を世界各国から収集

シシリア・アンダーソンさん (高輪在住)
 Cecelia Anderson (Takanawa)

シシリアさんは、アメリカ人、日本在住約6年の駐在員夫人です。趣味で、世界各国の150枚以上の布(アジア、アフリカの布が多い、敷物を含む)を集めています。布に関する知識も豊富で、依頼されて、レクチャーをしたこともあります。

「友人から、アフリカのガーナで作られたドレスをおみやげにもらったことが、布収集のきっかけになりました。絞り染めで、素敵なものです。その後、主人の仕事の関係で、東南アジアの国に駐在し、いろいろな国を旅行する機会もあり、布を集め始めました。職人によって丹精こめて作られたものが大好きです。特に、縦糸と横糸が織りなす模様かすりの面白さから、大島つむぎやインドの緋、またインドネシアのバティック(ろうけつ染め)などが好きです。日本の着物、帯も大好きで、気に入った色柄を見つけては買っています。

背が高く自分にあう着物がなくて、注文して江戸小紋の着物を作ってもらいました。今、着付けを習っています。個展を開くなどの計画はないけれど、集めた布を見ているだけで、幸せな気分になれるのです」と語るシシリアさん。愛用の桐箆かすりの中かすりには、着物、帯などがきれいに収納されていました。ネコ大好きなので、居間にはネコの飾り物も沢山!

コレクションで感心したのは、その質の高さ、趣味の良さ。いろいろ見せていただいて、とても勉強になりました。

日本料理も大好きで、特に魚料理、おそばが好物とのこと。墨絵、生け花も習っていて、日本文化をこよなく愛しているシシリアさん。最後に、住んでいる高輪についてお聞きすると、「緑多く歴史ある町、そして交通が便利、とても気に入ってます」とのことでした。



着物保管のための桐箆かすり



インドの総刺繍入りテーブルクロス



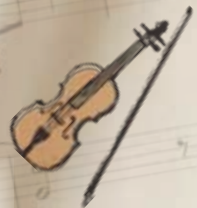
ガーナのドレスを着たシシリアさん

毎週水曜日は午後7時まで受付 ※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。 区民課窓口サービス係 ☎5421-17612 / 保健福祉係 ☎5421-17085

白金高輪
グリーンミュージック
フェスティバル
輪音
～音楽で結ぶ地域の輪～

出前コンサートを開催します

「白金高輪グリーンミュージックフェスティバル」の開催に先がけて、より多くの人に音楽を楽しんでもらえるように、高輪地区内で出前コンサートを行います。年齢に関係なくどなたでも入場できます。(入場無料)
普段なかなか音楽にふれる機会がない方も、ちょっと出かけて音楽に耳を傾けてみませんか？



日時	場所	内容
① 8月22日(水) 15:45～	豊岡いきいきプラザ(港区三田5-7-7)	ジャズコーラスとトランペット
② 9月19日(水) 14:30～	高輪いきいきプラザ(港区高輪3-18-15)	ピアノ・ソロ
③ 10月29日(月) 16:00～	白金台いきいきプラザ(港区白金台4-8-5)	ゴスペル

【問い合わせ】高輪地区総合支所 協働推進課 地区政策担当 ☎03-5421-7123

高輪地区では、ほっとひといき子育て相談を実施しています！

子育ては楽しいこともあります。心配事も多いものです。そんな時、保健師・助産師・管理栄養士が、子育てに関する相談や、お母さんご自身の体調に関する相談をお受けします。子育てをしながら、ほっと一息つける時間が持てるとよいですね。お気軽にお出かけください。

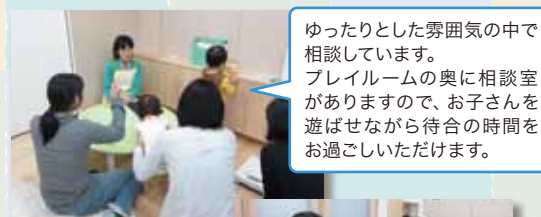
平成24年

- 8月 9日(木)・28日(火)
- 9月 13日(木)・25日(火)
- 10月 11日(木)・23日(火)
- 11月 8日(木)・27日(火)
- 12月 13日(木)・25日(火)

平成25年

- 1月 10日(木)・22日(火)
- 2月 14日(木)・26日(火)
- 3月 14日(木)・26日(火)

- 対象 区内在住の乳幼児と保護者又は妊産婦(高輪地区総合支所管内在住者優先)
- 場所 高輪子ども中高生プラザ
- 定員 午前12名 午後18名
いずれも会場先着順です。お子さんの測定のみをご希望の場合の定員はありません。



ゆったりとした雰囲気の中で相談しています。プレイルームの奥に相談室がありますので、お子さんを遊ばせながら待合の時間をお過ごしいただけます。

昨年できたばかりの施設です。おもちゃも絵本もピカピカです。



高輪子ども中高生プラザ地図
高輪地区総合支所5階を出てすぐの建物です



ほっとひといき子育て相談のスタッフです。お気軽にお出かけください。お待ちしております。

【問い合わせ】

高輪地区総合支所区民課 保健福祉係 保健師 ☎03-5421-7085

地域と三校(朝日中・三光小・神応小)との地域合同防災訓練が実施されました

平成24年6月2日(土曜)に港区立三光小学校において、白金地区防災協議会と三校(朝日中・三光小・神応小)が合同で、高輪消防署、高輪消防団、高輪警察署、高輪地区総合支所などの関係機関・団体の協力のもと、地域合同防災訓練を実施しました。

この訓練は登校する時間帯に大規模地震が発生したことを想定し、児童・生徒がその時にどのように行動するのかを知るため、保護者を含め、地域の方々を実施しました。

当日は、8時30分に各家庭から一時集合場所へ避難を開始して、安否確認後に白金地区防災協議会役員などの方々先頭を立て三光小学校へ集団避難をしました。三光小学校に到着後、各学年の児童・生徒は消火器訓練や起震車体験、簡易トイレ組立などの訓練を体験し、保護者もAED訓練を実施しました。

また、白金地区防災協議会の皆さんも、災害発生時に円滑な避難所の運営を行うことを目的とした避難所運営訓練を同時に実施しました。

白金地区防災協議会からは「避難所運営に関して色々課題が見つかったので、改善していきたい」などの声が挙げられ、学校からは「訓練を通して、地域と学校とのかかわりを深めることができた」などの声が挙げられました。



白金地区防災協議会とは、災害発生時に地域が連携して安全確保を図ることを目的として三校(朝日中・三光小・神応小)の学区内に所在する防災住民組織等によって構成された団体です。

都税事務所からの
お知らせ

災害等により甚大な被害を受けた方には都税を減免する制度があります

風水害や地震、火災などで甚大な被害を受けた方には、一度課税された税金のうち、まだ納期限が到来していない税金を、被災の程度等によって軽減または免除する制度があります。

減免する場合：床上浸水、崖崩れ、家屋損壊等の被害のうち、一定程度以上の被災の場合

減免の対象となる都税：固定資産税・都市計画税(23区内)、不動産取得税、個人事業税 など

減免を受けるための手続き：減免を受けるためには、納期限までに、納税者ご本人からの申請が必要です。被災された方は、区市町村(火災の場合は消防署)で発行する「り災証明書」など、被災の事実を証明する書類を添えて、都税事務所まで申請してください。

また、被災により、都税を一度に納めることができない場合には、納税を猶予する制度があります。なお、納税の猶予を受ける場合にも、申請が必要となります。

■詳しくは、都税事務所までお問い合わせください。 港都税事務所 ☎03-5549-3800

編集だより

●近衛さんは、日本赤十字社の基本精神である「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」を遵守しつつも、さっくばらんなお人柄に感動しました。(明石)

●読者の方への「みなとっぴ」を少しでも楽しんでいただけるよう、皆で努力をしています。新しい編集メンバーも加わり、気持ちは新たに編集に取り組んでいます。(安藤)

●たぐさんのお寺を巡りました。古くは、江戸時代初期から彼の地に存在し、これからもずっと、高輪地区を見守っていくのでしょうか。人間の存在など太陽の前を横切った金星よりも、もっと小さなものでしょうね。(伊関)

●江戸時代からの諸国大名家のお墓の多さに改めて高輪地区の歴史の奥深さ、気高さ及び品位を実感することが出来ました。(河村)

●編集委員若葉マークですが、編集委員の方々のフォローのおかげで、楽しく仕事ができました。(菅野)

●世界各国の布を大事に保管しているシリアさん。日本の着物を含め、シリアさんに収集された布たちは、幸せですね。(滝川)

●高輪地区に居住して25年目になりましたが、ようやく歴史を感じる事ができました。最近はお洒落な小さなレストランができました。若いファミリーが増えている気がします。住民の皆様役に立つような貴重な情報紙にしていきたいと思えます。(立原)

●明治45年、昭憲皇太后のご寄付による昭憲皇太后基金が創設され、皇太后の命日の4月11日に、各国の赤十字社に寄付が続けられて、世界から、高く評価されているとの事です。(三村)

●高輪地区は、歴史を巡る散歩をして、個人的な地元のお店で買い物を楽しんで、様々な活動をしている方々のお話を伺って、魅力的な地区ですね。(森)

●今号から新しく3つのシリーズが始まりました。これからどのように展開していくか、楽しみにしています。(谷知)

●中谷夫妻のお話は大変興味深く、戦前から現在に至る白金台の変遷には目を覚ます思いでした。このシリーズで蘇る昔の高輪の光景が楽しみです。(吉田)

●今回はヒョーキ模型者の方との都合がかわず、掲載できませんでしたが、次号では是非掲載したいと思えます。(渡邊)

- 安藤 洋一(チーフ)
- 吉田 由紀子(サブチーフ)
- 伊関 則子
- 菅野 真美
- 立原 木太郎
- 森 裕子
- 渡邊 義信
- 谷知 貞江(サブチーフ)
- 明石 美穂子
- 河村 保弘
- 滝川 まりえ
- 三村 晴子
- 安 勢津子

※この情報は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくりられています。